

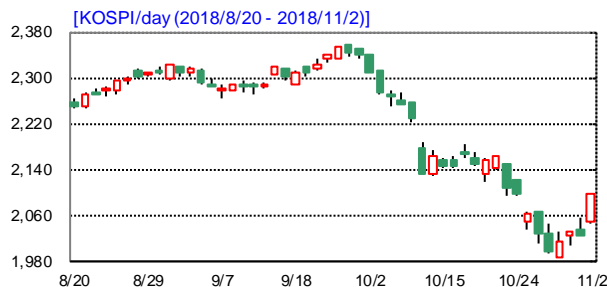


【韓国】 総合指数は週間で3.4%高と5週ぶり反発、今週は米中間選挙に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.4%高と5週ぶりに反発した。週明け10月29日は5営業日続落で心理的節目の2000ポイントを割り込み、約1年10カ月ぶりの安値で引けた。前週末の米ハイテク株安や週明けの中国株安が嫌気された。しかし、その後の4日間はおおむね堅調に推移。10月30日-11月1日は韓国政府の相場下支え策への期待に加え、米中株高などが好感された。戻り待ちの売りに押される場面もあったが、総じて買い戻し優勢で推移した。2日は米中首脳が貿易摩擦の打開に向けて協議することで一致したと伝わり、リスク選好姿勢が大きく改善。3%超の上昇となり、2100ポイント手前で終えた。今週は6日の米中間選挙に注目。結果次第で相場のボラティリティが高まる可能性も。国内ではCPIや貿易収支が発表される。

▼指数チャート

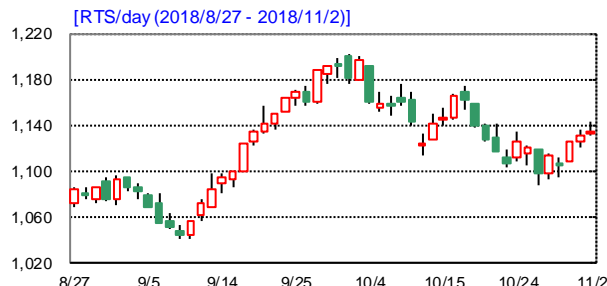


【ロシア】 RTS 指数は3.3%高と5週ぶり反発、今週は欧米株価をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.3%高と5週ぶりに反発。前週末までの4週間で7.9%安と大幅に下落したことで割安感から押し目買いの機運が高まる中、欧米株の上昇など世界的なリスクオンの流れを受けてロシア株も堅調に推移した。決算が好感されたアエロフロート・ロシア航空が11.1%高、MMC ノリルスクニッケルが7.7%高、ズベルバンク・オブ・ロシアが6.4%高となったほか、原油相場が下落する中でエネルギーのノバテクも4%超上昇し、指数を押し上げた。指数は週明け10月29日に前営業日比1.3%高と3営業日ぶりに反発してスタートすると、30日は0.7%安と反落したものの、31日に1.9%高となり、2日まで3日続伸。2日は10月半ば以来、約2週間ぶりの高値で引けた。今週は欧米株価や原油相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート



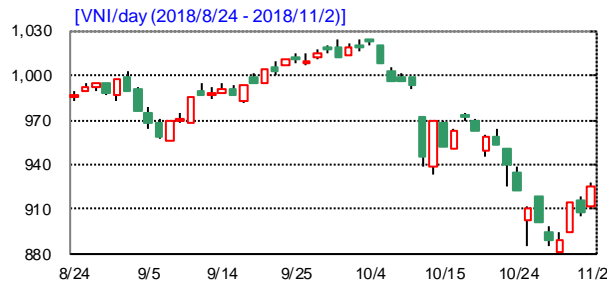
【ベトナム】 ベトナム指数は2.7%高と5週ぶりに反発、今週は米中間選挙を意識

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.7%高と5週ぶりに反発。欧米株が上昇し、世界的にリスクオンの流れが強まる中、ベトナム株も不動産や金融の時価総額上位銘柄が大きく上昇し、指数を押し上げた。週明け10月29日は不動産株や工業株に売りが続き、指数は前日比1.3%安と10月18日から8営業日続落。30日も小幅に下落し、9営業日続落となったが、31日は欧米株高が好感され、2.9%高と大幅に反発。1日は0.7%安と反落したものの2日は銀行株や不動産株が買われ1.9%高と反発して週の取引を終えた。個別では不動産のビンホームズが10.8%高、食品のマサン・グループが10.5%高、空運のベトジェットが8.6%高、金融のベトナム投資開発銀行が6.0%高となり指数を押し上げた。今週は米中間選挙の結果をにらんだ展開か。

▼指数チャート



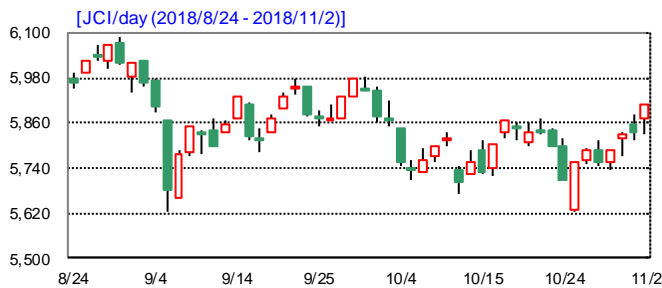


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.1%高、今週は 7-9 月期の GDP が焦点

ジャカルタ総合指数は週間で 2.1%高と反発。10 月月間では 2.4%安。先週は週初の反落を除き、堅調な値動きだった。29 日は前週後半に上昇した反動で反落してスタート。一方、30 日は米中貿易摩擦緩和への期待感から買われ反発すると、31 日は前日の NY ダウが 3 営業日ぶりに上昇した流れを引き継ぎ、指数は終値で 5800 ポイントを回復した。その後も上昇基調が続き、2 日は引け際に買われて前日比 1.2%高と 5900 ポイントに到達。結局、4 日続伸して取引を終えた。今週は 5 日発表の 7-9 月期の GDP に対する市場の反応が焦点。外部要因では 8 日に発表される中国の 10 月の貿易統計が意識されそうだ。

▼指数チャート

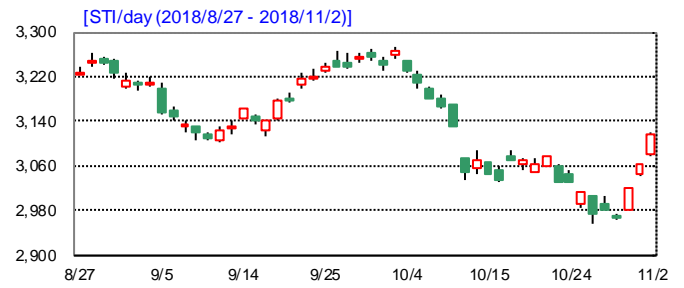


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 4.9%高、銀行株が指数上昇をけん引

ストレーツタイムズ指数は週間で 4.9%高と 5 週ぶりに反発。10 月月間では 7.3%安。先週は週半ばからの回復が上げ幅を広げた。週初の 29 日は売られ過ぎ感が強まったことを受け 3 営業日ぶりに反発。30 日は反落したが、31 日は銀行最大手の DBS グループが指数上昇をけん引し、終値ベースで前日比 1.8%高と反発した。1 日は 7-9 月期の純利益が過去最高に達したオーバーシー・チャイニーズ銀行が買われ、指数は前日比で 1.4%上昇すると、2 日はさらに 1.8%高と 3 日続伸して引けた。今週は 5 日発表の DBS グループの決算内容に対する市場の反応が焦点。6 日はディーパバリ（光の祭典）の祝日のため休場。

▼指数チャート

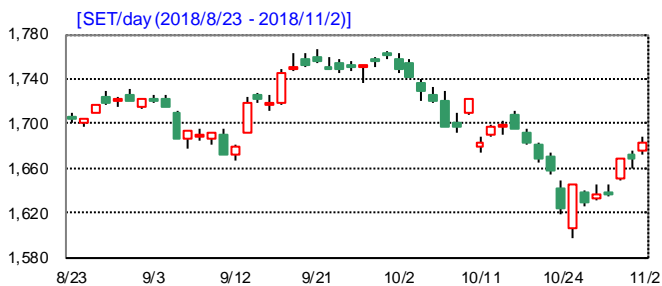


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 3.2%高、原油価格上昇で 5 週ぶりに反発

SET 指数は週間で 3.2%高と 5 週ぶりに反発。10 月月間では 5.0%安。先週は前週までの反動でおおむね堅調に推移した。週初の 29 日はタイ空港公社が指数上昇をけん引して反発すると、30 日は 9 月の鉱工業生産が前年同月比 2.6%減と 17 年 4 月以来のマイナスに転落したものの影響は軽微で、前日からほぼ横ばい。31 日は原油価格の上昇を受けてエネルギー株が買われ、指数は終値で前日比 1.9%高と 3 日続伸した。1 日は小幅ながら反落したが、2 日は米中首脳が今月末の G20 に合わせて会談する意向を確認したことが好感され、反発して引けた。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート

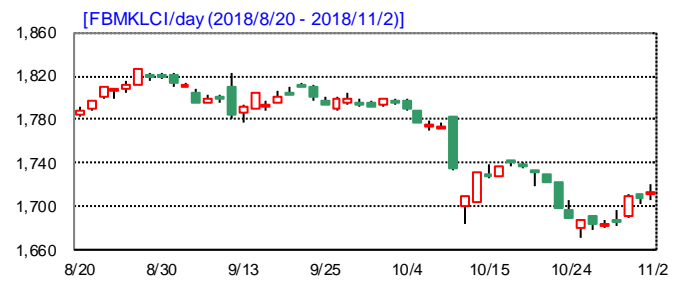


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.8%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は週間で 1.8%高と反発。10 月月間では 4.7%安。先週は 2 日に 19 年度政府予算案の発表を控える中、じりじりと上値を広げた。週初の 29 日は引け際に IHH ヘルスケアが買われ、小幅ながら 8 営業日ぶりに反発。30 日も続伸すると、31 日には終値で前日比 1.4%高と 1700 ポイントを回復したが、1 日はわずかに反落。一方、2 日は財政赤字拡大の見通しが発表されたことが重しだったものの、指数は反発して引けた。今週は 5 日に 9 月の貿易統計、9 日に鉱工業生産が発表されるほか、8 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。6 日はディーパバリのため休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。